

# 大豆技術情報 第1号

令和4年5月  
富山市農業協同組合  
富山農林振興センター

R3年産大豆は一部の地域で「青立ち」や軽微な「莢先熟」の発生が見られました。  
これらの発生を防止するため、以下の対策を徹底しましょう！

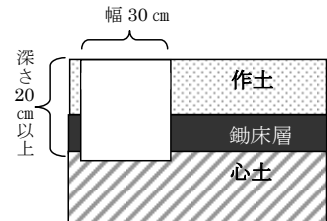
- 極端に早い播種を避け、できるかぎり6月上旬から播種を実施する。
- 地力の高いほ場では、過剰な生育を防止するため、適正な播種量と施肥量を遵守する。

目標苗立数と初期生育を確保のために、適正な「排水対策」「土づくり」「播種作業」を行いましょ

## 1 排水対策の徹底

メリット：降雨後も早めに耕起・播種可能  
砕土率、播種精度が向上し

- ・用水路や水口からの漏水を防止しましょう。
- ・ほ場が乾いているときに、幅30cm、深さ20cm以上を目安に額縁排水溝を確実に設置し、深く掘り下げた排水口に連結しましょう。



《額縁排水溝イメージ図》

## 2 土づくり

- ・耕起前に必ずマグフミン(粒)を100kg/10a施用し、土壌pH 6.0～6.5を確保しましょう。
- ・地力向上のため、堆肥等の有機物を積極的に施用しましょう。

《堆肥施用量の目安》

種類	10a当たり施用量
牛ふん堆肥	1～2 t
発酵鶏ふん	100kg

## 3 病害虫防除

- ・種子伝染性病害やフタスジヒメハムシ等の加害を防ぐため、必ず種子消毒を行いましょ

薬剤名	処理方法	対象病害虫等
クルーザーMAXX	種子1kg当たり8mL塗沫	紫斑病、茎疫病、タネバエ、ネキリムシ類、アブラムシ類、フタスジヒメハムシ、ハト(忌避)
キヒゲンR-2フロアブル (病害虫発生が少ないほ場)	種子1kg当たり20mL塗沫	紫斑病、タネバエ、ハト(忌避)

## 4 播種作業

- ・ほ場が乾いた条件で、耕起、砕土・整地、播種、作溝の一連の作業を1日で行い、砕土率60%以上を確保しましょう(右写真参照)。
- ・目標栽植本数を確保するよう事前に播種機の調整(ダイヤル調整ロール、スプロケット等)を行いましょ
- ・作業速度は0.5m/秒程度の速さ(3連の播種機で30aほ場を70分で播種する速度)とし、確実に播種しましょ
- ・播種深度は3cmを目安としましょ
- ・除草剤は、播種後、土が乾かないうちに散布しましょ



《砕土率60%以上の土壌》

《播種時期別の大豆播種量》

今年は大粒傾向

品種	播種時期	栽植本数 (本/10a)	播種量:注) (kg/10a)
えんれいの そら	5月26日～6月上旬	14,000～16,000	5.5～6.3
	6月中旬	16,000～18,000	6.3～7.1
シュウレイ	5月26日～6月上旬	12,000～15,000	5.3～6.6
	6月中旬	15,000～18,000	6.6～7.9
オオツル	6月上旬	10,000～12,000	4.5～5.4
	6月中旬	12,000～14,000	5.4～6.3

注) 大粒の百粒重:「えんれいのそら」35.6g、「シュウレイ」39.4g、「オオツル」40.2g、苗立率90%の場合

《基肥量の目安》

肥料名 (N:P:K)	土壌条件	施用量(kg/10a)	
		単作	麦跡
BB基肥084 (10:18:24)	砂壤土・壤土	30～40	50～60
	埴壤土	20～30	40～50

《除草剤》(下表のいずれか)

除草剤名	散布量(/10a)
トリアリサイド粒剤2.5	4～6kg
ラカサ粒剤	4～8kg
プロルブラス乳剤	400～600ml

令和4年 春の農作業安全運動(4/1～5/31)

JA富山市 営農情報

検索